

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A中学校)

6月に横浜への校外学習を実施し、赤レンガ倉庫や山下公園、中華街などを散策した。校外学習には、校内別室に登校している生徒の7割以上の生徒が参加した。校外学習の計画については、散策のコースや食事場所についての話し合い活動を実施した。普段、それぞれの曜日や時間に登校している生徒が一同にそろうことができたため、教室で学級活動を行っているような雰囲気を生徒は体験することができた。

当日は、生徒の計画に基づき、商業施設の観覧車に乗るグループ、観光用のロープウェイに乗るグループ、そのいずれにも乗らずに散策するグループに分かれて赤レンガ倉庫まで散策した後、全員で山下公園や中華街を周った。昼食時には、注文や会計をする場面などお互いに気を遣いながら相談し合う姿が見られた。

【取組2】(A・B中学校)

A中学校とB中学校では、日頃から校内別室で絵を描いて過ごしたり、独自にデッサンの学習に取り組んだりする生徒が数人いた。そこで、生徒と相談し、デッサンの基礎について学習できるよう絵画教室を開催した。講師は教育委員会の協力の下、元美術科教員の職員の方をお願いすることができた。生徒たちは2時間の間、集中してデッサンの学習に取り組んでいた。



【取組3】(A中学校)

各教科における話し合い活動の基盤として、学級活動の中で自己決定の場を設け、生徒同士が安心して意見を伝え合い、合意形成を図ることができるような取組を行っている。その上で、例えば理科の授業では、実験結果について話し合う中で、生徒が安心して自分の考察などを発表し合いながら、合意の形成を図り、実験結果の考察を行うことができるよう指導している。

【取組4】(A中学校)

特に配慮を要する生徒の情報を共有するための生徒理解研修を行った。その中には、不登校の生徒や、登校を渋り始め、今後不登校になることが懸念される生徒など配慮すべき内容について、学年や学級の教員から情報を提供してもらい、全教員で情報を共有し、適切に対応できるように協議した。

多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

支援会議（C中学校）

支援会議では、全校生徒の毎週の欠席状況を報告し、新たに登校しづりが懸念される生徒について、対応の方針を検討した。支援会議には地区内の教育支援センターの支援員も出席するため、校内別室だけではなく、教育支援センターを利用している生徒の情報も共有することができた。

アウトリーチによる支援（D中学校）

D中では、校内別室に登校することができない生徒に対して、近くの公民館で学習支援を行ったり、コミュニケーション活動を行ったりした。また、A中の生徒にも公民館に来てもらい、合同で交流活動を行った。

校内別室における支援（A・B中学校）

A中学校、B中学校では、校内別室において、ボードゲーム等を活用してレクリエーション活動を行った。レクリエーション活動を通して人との関わり方を学ぶとともに、活動の中でお互いを認め合うことにより、自己肯定感や自己有用感を高めることを目指した。また、生徒の発案により、卓球のトーナメントや、ビーチボールバレーなども行った。レクリエーション活動により、校内別室が生徒にとって居心地の良い場所になり、登校が安定した生徒が増えた。また、校外学習を実現できるまで校内別室内の雰囲気良くなった。

デジタル機器を活用した支援（A中学校）

算数や数学の学び直しができるオンライン教材を準備した。希望する生徒には利用の仕方や学び方について指導した。全ての生徒がオンライン教材に興味をもつことはできていないが、意欲の高い生徒は自分のペースで確実に学習を進めることができている。

関係機関との連携（A中学校）

地域のボランティア団体と連携し、都立公園で花壇や湧水の池などのお手入れなどのボランティア活動に取り組んだ。
市内のボランティアセンターと連携し、高齢者との交流などのボランティア活動に取り組んだ。

成 果

それまで校内に入ることのできなかつた生徒が、校外学習への参加をきっかけに、校内別室に登校できるようになった。

課 題

校内で調整したり、使用していない物品を譲り受けたりする等、校内別室で必要な物品を工夫して調達していく必要がある。